

# 野津原地区

## 1. まちづくりの目標

### 「清流と歴史を生かした 交流拠点の形成」



本地区は、全体の8割近くを森林が占める壮大な自然に恵まれた中山間地帯で、起伏に富んだ谷間の限られた空間に集落が点在しており、その周囲には棚田をはじめとする壮大な農村景観・自然景観が広がっています。

本地区では国指定重要文化財である後藤家住宅や熊本肥後藩の参勤交代道路として整備された今市石畳など、由緒ある歴史的資源を有しています。

また、地区中央部ではななせダム及び道の駅のつはるや、のつはる天空広場が完成し、地域の活力を担う新たな交流拠点となることが期待されています。

このようなことから、本地区は「清流と歴史を生かした交流拠点の形成」をまちづくりの目標とします。

#### 野津原地区の将来都市構造図



序章  
都市計画  
マスタープランとは

第1章  
都市づくりの目標

第2章  
全体構想

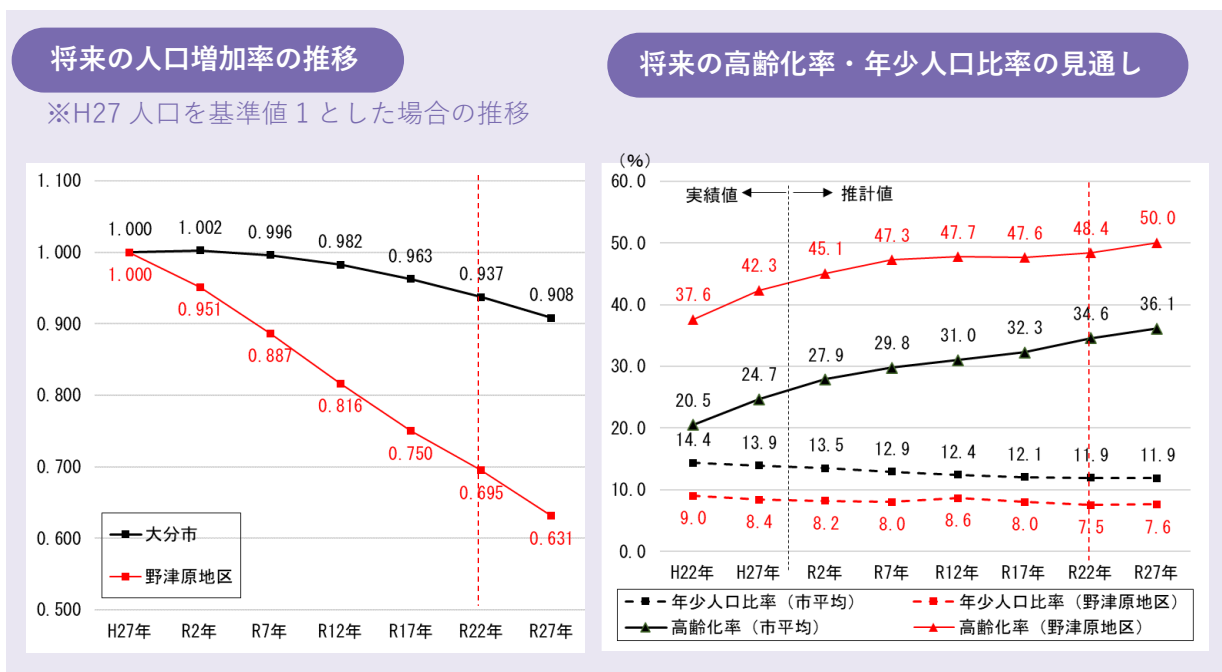
第3章  
地区別構想  
野津原地区

第4章  
計画の実現に向けて

### 第3章 地区別構想

#### 2. 地区の現況

- ・森林が8割近くを占める中山間地において、棚田による稲作や果樹及び椎茸などの農産物の生産が行われています。
- ・人口は減少傾向にあり、平成27年から令和22年までの間に約3割の人口が減少する見通しです。
- ・人口構成についても少子高齢化が急速に進んでおり、平成27年において既に地区住民の約4割が高齢者となっており、本市全体の高齢化率と比べても高水準となっています。この傾向が続けば、令和22年には人口の約半数が高齢者となる見通しです。一方、年少人口比率をみると平成27年には人口の約1割未満となっており、令和22年まで、この傾向が続く見通しです。

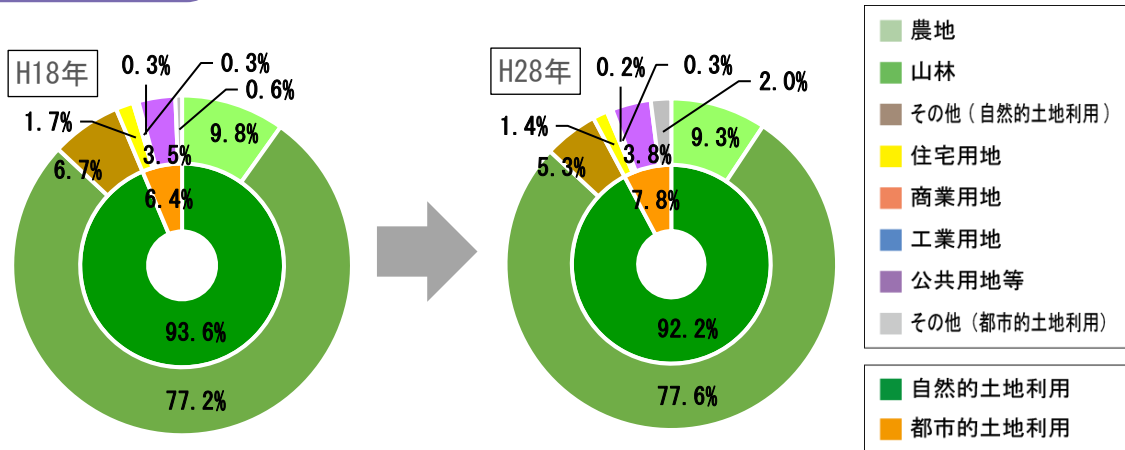


※推計値は、「大分市人口ビジョン」に示す「地域別の人口推移」を基に作成

※この推計は、2010年から2015年までの5年間の人口変動が将来にわたって続くと仮定し計算したものであるため、2016年以降に人口変動に大きな影響を及ぼす要因が発生した場合、将来人口推計が大きく変化する可能性があります。

- ・本地区は平坦地が少なく、全体の8割近くが森林山林となっているなど、自然に恵まれた中山間地帯となっています。
- ・本地区独特の地形を反映して土地利用の構成については、地区面積 9,074ha で宅地や道路などの都市的土地利用は 7.8%、山林などの自然的土地利用面積は 92.2%となっています。

土地利用の動向



- ・主要な交通体系は、国道 442 号及び県道久住高原野津原線により、豊後大野市を経て、日田・筑後方面へ連絡しています。
- ・野津原地区には、都市計画区域などの都市計画の指定はありません。
- ・令和元年、ななせダムの整備とともに、地区の交流拠点施設として、道の駅のはるや、のはる天空広場が完成しました。
- ・七瀬川沿いに棚田のある特徴的な景観が形成されています。
- ・今市石畳や国指定重要文化財後藤家住宅などの歴史資源が点在しています。
- ・貴重な動植物が生息・生育する緑豊かな自然環境を生かした県民の森（平成森林公園）や、のはる少年自然の家等が整備されています。



棚田



後藤家住宅

## 第3章 地区別構想

### 3. まちづくりの課題

#### 1 | 土地利用・市街地整備

- ・野津原東部地区では、地区の生活利便性の維持に向けて、公共公益施設の集積を維持していくことが必要となっています。
- ・ななせダム周辺地区においては、ななせダムを核とし、道の駅のつはるや、のつはる天空広場との連携により、魅力を最大限に活用していくとともに、地域住民の生活利便性の維持・向上に資する土地利用を促進する必要があります。
- ・野津原中部小学校等の施設跡地の効果的な利活用の継続が必要です。
- ・既存集落においては、人口減少による地域コミュニティの希薄化が懸念されます。

#### 2 | 交通施設

- ・本地区内では、道路の改良が市内の他地区に比べ大幅に遅れており、国道442号及び県道久住高原野津原線の2つの東西に横断する幹線道路やこれらをはしご状に結ぶ市道の整備など、生活の利便性や防災面を考慮した道路網の整備が急務となっています。
- ・既存集落地の道路については、幅員が狭いなど整備が不十分です。
- ・公共公益施設や地域資源へのアクセス性の強化が求められています。
- ・少子高齢化の進展等に備え、交通弱者の移動の利便性や安全性を向上させる必要があります。

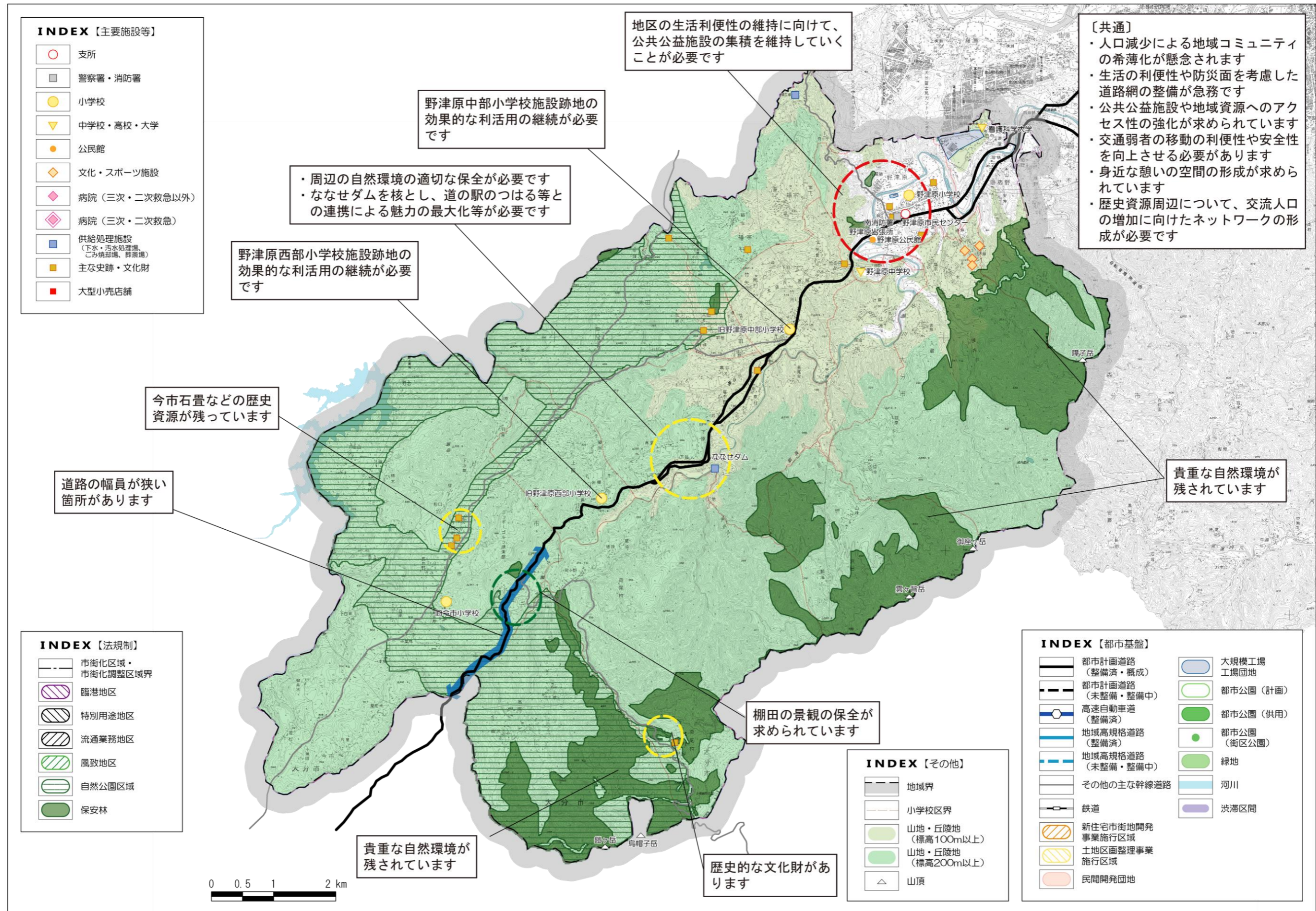
#### 3 | 環境・景観

- ・ななせダム周辺地区の整備に伴い、必要以上に良好な農地や景観が喪失することがないように、適切な保全が必要です。
- ・七瀬川の周辺に広がる優良な農地や里山、障子岳などを中心とする山地・丘陵地における豊かな自然環境の保全と活用が求められています。なかでも、棚田のある田園風景は、本市を代表する美しい景観として保全が求められています。
- ・今市石畳や国指定重要文化財後藤家住宅などの歴史的な価値の高い地域資源が分布しており、これらの資源周辺の良好な景観の保全・形成を図ることが必要です。
- ・地区の人々のための身近な憩いの空間の形成が求められています。

#### 4 | その他

- ・今市石畳や国指定重要文化財後藤家住宅などの歴史資源周辺については、交流人口の増加に向けたネットワークの形成が必要です。

野津原地区の現況及び課題



序章  
都市計画  
マスタープランとは

第1章 都市づくりの目標

第2章 全体構想

第3章 地区別構想  
野津原地区

第4章 計画の実現に向けて

## 4. まちづくりの方針

## 1 | 土地利用・市街地整備

- ・野津原東部地区に野津原支所や地区公民館などの行政サービス施設やコミュニティ施設、商業・業務施設を集積し、生活圏の中心となる地区拠点の形成を図ります。
- ・ななせダム周辺については、道の駅のはる、のはる天空広場と合わせ、うるおいと安らぎのある観光・レクリエーション拠点として、周辺の自然環境と調和した計画的な空間形成を図ります。
- ・野津原中部小学校等の施設跡地については、地域活性化を図るための活用を推進します。
- ・優良な農地の保全に努めつつ、人口減少の著しい既存集落については地域コミュニティの維持・活性化を図ります。



ななせダム周辺

## 2 | 交通施設

- ・国道 442 号の拡幅整備を促進します。
- ・地区内集落の生活利便性及び災害時の安全性の確保のため、東西に横断する国県道に接続する道路の整備・改良を推進します。
- ・幹線道路に存している車同士のすれ違いが困難な箇所の解消に向けた取組を進めます。
- ・行政関連施設や学校などの公共公益施設及び観光に資する地域資源に接続する道路を中心に、道路の機能強化を図ります。
- ・歩道などのバリアフリー化を推進します。
- ・公共交通の充実に向けて関係機関にはたらきかけるとともに、新たな交通システムの導入等について検討を進めます。

## 3 | 環境・景観

- ・ななせダム周辺においては、ダム本体の魅力と、自然に囲まれたダム湖の美しい景観を生かし、自然と調和したうるおいのある空間づくりを推進します。

### 第3章 地区別構想

- ・障子岳、県民の森（平成森林公園）、鎧ヶ岳や、烏帽子岳などの自然環境の保全を図ります。
- ・高原地区の棚田は、本市を代表する美しい景観として、優良農地の保全を図ります。
- ・今市石畳・丸山神社周辺では歴史資源を生かした景観形成や自然環境の保全を図ります。
- ・国指定重要文化財後藤家住宅周辺は、自然環境の保全を図ります。
- ・地区の人々が集い、憩うことのできる身近な広場・公共的空間の充実を図ります。

#### 4 | その他

- ・今市石畳や国指定重要文化財後藤家住宅などの観光・レクリエーション拠点間における連携強化を図り、交流人口の増加を目指します。

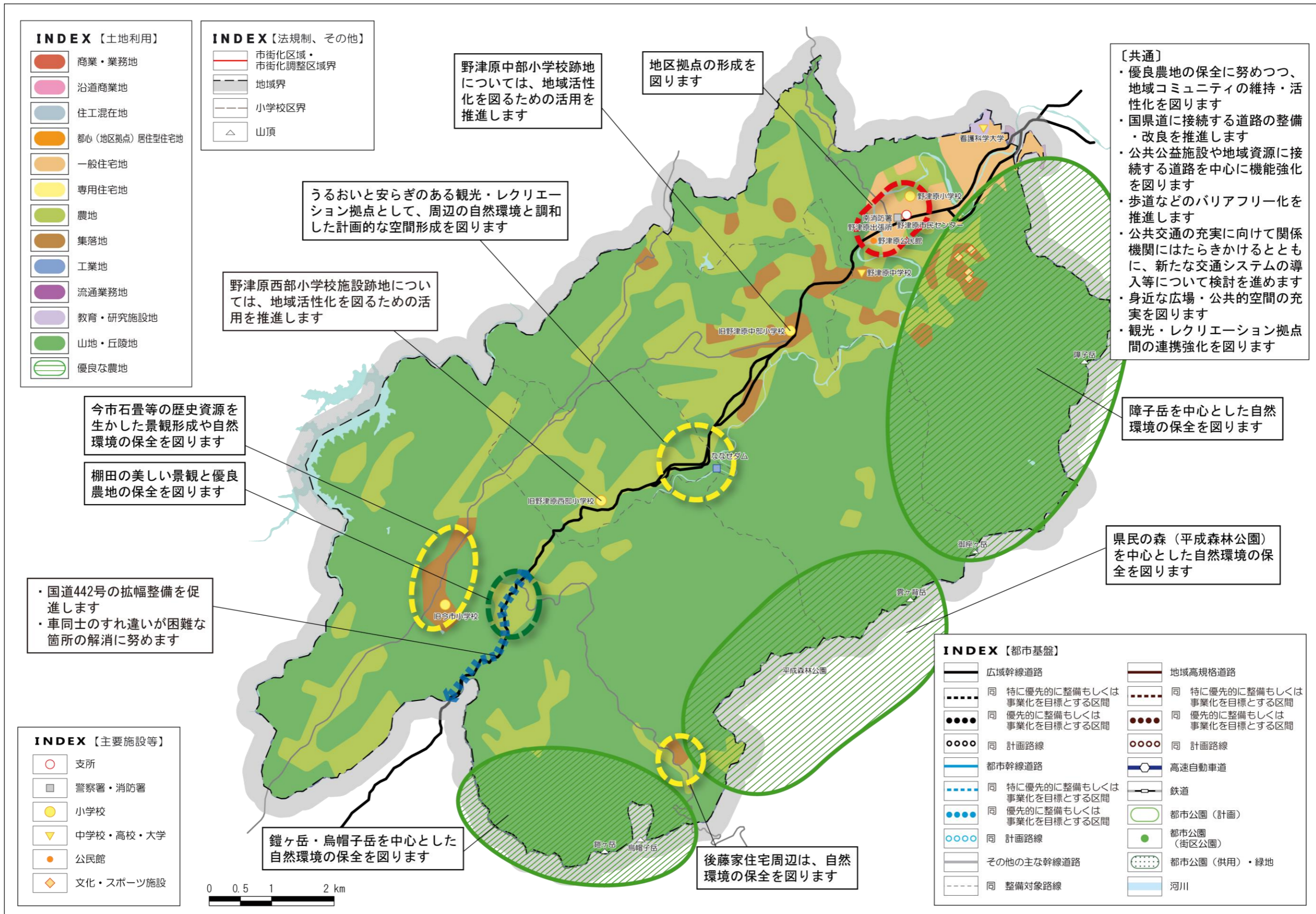


今市石畳



丸山神社

野津原地区のまちづくりの方針図



序章 都市計画マスタープランとは

第1章 都市づくりの目標

第2章 全体構想

第3章 地区別構想 野津原地区

第4章 計画の実現に向けて